

【平成16年度専修学校先進的教育研究開発事業】

事業名	ナレッジマネジメントを活用した 習熟度別eラーニングコンテンツの研究開発		
学校法人名	学校法人 未来学舎		
学校名	国際コンピュータビジネス専門学校		
代表者	理事長 望月 宗敬	担当者・連絡先	実施副委員長 片瀬 拓弥 TEL 0263-26-5500
<p>&lt;事業の概要&gt;</p> <p>専修学校においては、生徒の基礎学力のバラツキが大きいことが教育上の課題である。そのため、習熟度別指導を実施している学校が少なくない。習熟度別指導は、学習者のペースに合わせた学習指導ができるという利点がある。しかし、教員コスト増、習熟度下位生徒への差別感発生など、必ずしも良い成果のみがあるわけではない。従来、習熟度別授業を実施する場合、習熟度ごとに先生及び教室配置、別課題作成等によって対応していたため、経営資源（人・物・金・ノウハウ）が相当程度必要であった。これら問題の解決のため、現在eラーニングの導入が進んでいる。</p> <p>しかし、eラーニング導入に伴い次のような新たな課題が発生している。</p> <p>課題：導入後の教員間協力体制の確保          課題：コンテンツ開発コスト増への懸念          課題：学習モチベーションの向上方法、である。</p> <p>本研究では、上記のような課題を解決するため、専修学校、企業人などで構成された実施委員会を設置し、各プロセスが最善のものとなるように研究開発を実施した。</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <p>本研究では、まず全国の専修学校に「習熟度別指導等に関する実態調査」を実施した。その結果を分析し、「習熟度別指導の課題」及び「教員間における教授方法の蓄積・共有の障害要因」を明らかにすることで上記課題の解決策を模索したのである。</p> <p>成果：課題 に対し、組織的知識創造理論をベースとしたナレッジマネジメント(KM)という手法を活用し「教員間協力体制を確保」することを試みた。その結果、「習熟度別eラーニング教育カリキュラム」を開発することに成功した。</p> <p>成果：課題 に対し、コンテンツを時間及び容量的にモジュール分割することにより、「短時間開発」及び「授業要素のカスタマイズ」を可能とする独自開発手法「MIRAIメソッド」を考案した。この「MIRAIメソッド」を用いることで、様々な教育現場で応用可能な「習熟度別eラーニングコンテンツ」の開発に成功した。</p> <p>成果：課題 に対し、学習モチベーションを向上させる授業要素に考慮した「習熟度別eラーニングコンテンツ」をパイロット実施校の生徒に受講させたところ、一定の満足度評価を得ることに成功した。</p> <p>また、本研究の学術的成果は、日本教育工学会論文誌特集号「テーマ：実践段階のeラーニング」の応募論文としてまとめられ、以下の論文名で学会誌に投稿されている。</p> <p>投稿論文名          「KM活用によるインストラクショナルデザインモデルの構築」          (2005年3月現在、査読中)</p>			